

5 焼津中央高等学校実施報告書

1 実施日時 令和5年11月4日(土)10時から14時まで

2 実施場所 焼津PORTERS(焼津市中港3-1-16)

3 実施内容

(1) タイトル ギネス世界記録®『オンラインで同時にフィッシュケーキを食べた最多人数』

(2) 講師 国立米子工業高等専門学校 谷藤尚貴教授
株式会社丸又 鈴木理恵子社長

(3) 内容 焼津の特産品である『黒はんぺん』(フィッシュケーキ)をZoomのオンライン会議で同時に食べた最多人数(100人以上)をギネス世界記録として認定を目指した。また、ギネス世界記録に挑戦するために必要な当日配布用として、自称世界一大きい黒はんぺん作りも行った。
結果として、11月4日にギネス世界記録に挑戦し、229名が認定された。

4 プロジェクトの概要

<テーマ設定>

私たちは学校のSDGs探究活動で海洋ゴミのアップサイクル活動を行っている。活動を進めていく中で、3月に焼津PORTERSで行われた焼津サトヤマカイギに参加した。サトヤマカイギでは「地域の活性化」が焼津の未来を担っていく上で大切だということを実感し、目に見えることに加えて焼津の自慢になるようなことをやってみたくとも考え、焼津の特産品である黒はんぺんに関連したギネス世界記録に挑戦しようとした。黒はんぺんは『焼津』を象徴する特産品の1つである。未来の新しい焼津に向けて、私たち高校生が中心となって、世界一大きな黒はんぺんの製作から消費、ギネス世界記録挑戦まで全てを1から計画し、地域の方やサトヤマカイギで関わった方々と交流しながら一緒に挑戦することで、より地域に関心を持つ人が増えるのではないかと考えた。黒はんぺんの製作にあたって、地元黒はんぺん老舗企業の「丸又」様に、材料と設備の利用についてご協力していただいた。また、ギネス世界記録挑戦については、米子工業高等専門学校の谷藤尚貴教授に御指導いただいた。ギネス世界記録挑戦は、地域活性化の手段になるということで、今回焼津での私たちの計画に前向きに関わってくださいました。

さらに、作製した黒はんぺんをその日のうちに完食しなければギネス世界記録®として登録されないため、多くの方が食べる必要があり、焼津港の新スポットとして期待されている焼津PORTERSでのイベント開催を考えた。焼津PORTERSで行われるマルシェまたは独自イベントとして『黒はんぺんで世界一に挑戦!』を行い、多くの地元の人や観光客を呼び込み地域の活性化を推進したいと考えた。

焼津の食文化発信イベント
2023年11/4(土)10:00~14:00 雨天決行
旧焼津港サトヤマカイギ 限定200食 小学生まで対象 ※無くなり次第終了
・オンラインイベント開催(焼津の食文化の歴史を振り返る)
・焼津の自慢になる子どもたちの活躍を応援
・焼津の活性化
焼津中央高校生と一緒に!
黒はんぺんで世界一に挑戦
11時 披露・配布
12時〜オンラインイベント
『Most people eating fishcakes online simultaneously!』
主催: 焼津港O-PORTERS、焼津中央高校
会場: 焼津PORTERS(焼津市中港3-1-16)
問い合わせ先: 054-626-3160 後援: 焼津市



<イベント実施までのプロセス>

元々、黒はんぺんの大きさをギネス世界記録®に挑戦しようとして検討していた。しかし、Largest fishcake の記録がある中で、そこから細分化をし、新たにはんぺんの記録を作ることが難しいという判断となった。Largest fishcake から更に細分化するとなると、形状、材料、作り方が特殊である必要があったが、今回の主な材料がすり身+でんぷん質となり、現在の Largest fishcake の記録保持者が作った料理にも小麦粉が入っているため材料でも差別化ができないと判断した。

その後、協力してくださっていた米子工業高等専門学校の谷藤先生、株式会社丸又様、焼津 PORTERS の職員様と話し合いを重ね、既にギネス世界記録®として登録されていた「オンラインで同時にケーキを食べた最多人数」を参考に、黒はんぺんの大きさではなく「オンラインで同時に黒はんぺんを食べた最多人数」に挑戦するに至った。

オンライン上で黒はんぺんを食べている姿を確認するために使用した Zoom の操作をサポートして下さった IT 企業株式会社サンロフト様との話し合いを重ね、当日までの仕事内容、必要書類等を確認した。株式会社丸又様にはギネス世界記録®挑戦に使用する黒はんぺんを提供していただいた。また、ギネス世界記録®挑戦に用いる（当日参加者に配布する用）に『世界一大きい黒はんぺん』を作るために型と材料の用意をしていただき、10月16日には試作を行った。焼津 PORTERS 様には、ギネス世界記録®挑戦のために会場として漁具倉庫を貸していただいた。11月1日は米子高専に黒はんぺんを発送、11月2日には、焼津中央高校からの参加者に当日食べてもらう黒はんぺんを配布して、挑戦への準備を着々と進めた。11月3日の焼津 PORTERS での事前準備の際には焼津中央高校の生徒をはじめ、米子工業高等専門学校の生徒のご協力の下、Zoom の接続テストを行った。



<イベント当日>

イベント当日は Zoom 班、会場班、『世界一大きい黒はんぺん』の切り分け班、と3グループに別れて会場の運営を行った。Zoom 班はオンライン上で黒はんぺんを食べてくださる参加者へのルール説明や実際の動きの指示を行った。会場班は焼津 PORTERS にて当日オンライン上で黒はんぺんを食べてくださる参加者への説明を行い、小さなお子様からお年寄りまで沢山の方にわかりやすく説明を行うことに務めた。切り分け班は、イベント当日、早朝より丸又様の工場にて『世界一大きい黒はんぺん』を製作し、完成後は焼津 PORTERS にて披露を行い、切り分け、イベントに来てくださった方に配布した。

当日は沢山の方が焼津 PORTERS を訪れ、共にギネス世界記録®挑戦に参加し、記録達成につとめた。また、やいづ親善大使であるしんえがおスターズの方にもご参加いただき、子どもたちと共に歌と踊りでイベントを更に盛り上げた。当日は、Zoom のオンライン上に 284

名の参加者があり、証人の方 2 人と撮影した動画のチェックを行い、241 人で申請を行った。審査の結果、Most people eating fishcakes online simultaneously に 229 人が、記録として認定された。

5 感想

当初は大きさを挑戦を試みようとしたが、ギネス世界記録®には既に魚のすり身を使った壮大な記録があり、他の魚のすり身を使った加工食品と黒はんぺんの差別化が難しく、新部門の設立ができなかった。そのため大きさをでの挑戦は断念となってしまった。しかし、オンラインで同時に食べるというコロナ禍を乗り越えたならではの種目に挑戦することができ、多くの高校生がボランティアや参加者として企画に携わり、地域の子どもから高齢者まで沢山の人を巻き込んでのイベントとして、地域を盛り上げる活動が高校生の力によってできたと思う。地域の様々な方々と連携し、大きな企画を自らの力で運営する（人と物とお金を動かす）という非常に有意義な将来に役立つ大きな経験となった。また黒はんぺんという焼津特有の食品をメディアなどに取り上げていただいたことで全国の方にも認知していただくよい機会となり、地元焼津市の魅力も発信することができた。今回のギネス世界記録®挑戦での経験や思い出は一生の財産となった。今回の活動をもとにこれからも焼津市を盛り上げ、今後の社会生活でもこの経験を活かしていきたい。

